

「全鍍連」 2018年 12月号 理事長のよこがお

石川県鍍金工業組合 理事長 中島 秀明 (中島メッキ工業(株) 代表取締役)

「金沢」



平成27年から石川県鍍金工業組合の理事長を務めさせていただいております中島秀明です。

新幹線が金沢にやってきて、早3年が過ぎました。開業前の金沢駅では考えられないようないつでも乗降客で賑わい、街にはホテルが次々と建てられ、そのような中でも、ホテルの予約が取りづらい状況になっております。更には、石川県の有効求人倍率が全国のトップクラス（H30.9は2.0）を保っており、期待以上の効果となっています。新幹線はこの3年間で今年9月に金沢に直撃が予想された台風の日一度運休したのみで、北陸の雪の中でも嵐の中でも走り続けてくれています。

お陰で、朝一の新幹線で向かえば、9時には東京のオフィスで商談が行え、日中の業務を行い、夜の懇親会を楽しんでも当日中に金沢に戻れる。今、東京から2時間半で行ける町となりました。

わが町の紹介させていただきます。金沢は、現在は、46万人強の人口で、金沢と言えば、食が美味しい、文化都市、兼六園等々思い浮かべていただけたらと思います。江戸時代には加賀百万石の地で、東京、大阪、京都に次ぐ日本の第4番目の都市でした。中心街は、浅野川、犀川に挟まれ、自転車で回ると、一日もあればどこでも行ける町です。休日ともなれば、新幹線に乗ってやってきた人たちが、兼六園・金沢城公園・21世紀美術館周辺、近江町市場の街中の有名どころに溢れています。また、浅野川右岸にあるひがし茶屋街、犀川左岸にあるにし茶屋街にも多くの人が行きかっています。それらの茶屋街の近くは、金沢の三文豪、泉鏡花、室生犀星、徳田秋声の生誕の地であり、浅野川沿いには泉鏡花と徳田秋声の、犀川沿いには室生犀星の記念碑、記念館があります。これらは人が大勢集まる近くにありますが、比較的静かで、もう一つの金沢を味わうことができます。室生犀星の「ふるさは遠きにありて思ふもの そして悲しくたふもの よしや うらぶれて異土の乞食かたみとなるとも 帰るところにあるまじや」知っている方も多いと思いますが、犀星の出生の地で詠った詩です。少年時代に過ごした犀川べりで上流の山々を眺めれば、一層感傷的な思いに浸ることができる町です。それぞれの記念館は、それぞれの趣があり、是非一度訪ねてみてください。

北陸新幹線も2022年には敦賀まで延伸されます。現況は、終着駅効果もあり、開通から継続して金沢の町は活気を保っています。これが継続するようこれからも文化・技術の振興を図っていきたくと考えています。